



次の楽章に向かって

第19回統一地方選挙福井県議会議員選挙が終わりました。（公職選挙法の関係で、御礼を記すことはできませんが）充実した期間でした。2期目に入る渕上市政に対しても、いろいろな角度から提言を行い、敦賀躍進のため、市政と県政のパイプとなってまいりたいと考えます。

私自身、厳しい選挙戦でしたが、いろいろな場で思いを伝えることができ、とても有意義な選挙でした。この間の学びについては、最後にまとめさせていただくとして、私にとっては最後となった3月市議会の報告をさせていただきます。

3月議会 一般質問から



1. 生活実態把握と現状について

4年前、この場で明確な目標を持った計画と将来を見通した施策が求められることを述べたのを覚えています。そのために何よりも必要なのは、現状をしっかりと把握して分析していくという姿勢でした。スモールステップでの目標値をしっかりと設定していくことが求められるのだとも訴えました。

あれから4年。渕上市長のもとで市民の生活基盤の現状はどのように向上してきたのか、また課題は何なのかを下記の点について伺いました。

- (1) ①敦賀市内の労働者の正規雇用者比率
- ②若者の完全失業率
- ③可処分所得（給与から税金や保険等を支払った後に自由に使える所得で、生活に直結するもの）の把握についてはどうなのか。
- ④敦賀市の貧困率、そして子供の貧困率、これについてはどうなのか。
- ⑤ワーキングプアと言われる年収200万未満の方の数



これらの質問を通して確認できことは、次の2点です。

★①②を通して、働くということに対しては、本市の場合、男性に関しては9市の中で、かなり数値的には上位であるということ。反面、正規雇用者率と失業率の面では、女性は9市の中で、かなり厳しい状況にあるということ。

★③④⑤については、その答弁を記しておきます。

③→平均給与、可処分所得につきましては、国の基幹統計であります毎月勤労統計調査や全国消費実態調査にて把握している。ただ、この調査につきましては、福井県の結果として公表されているもののみで、市町別の数値は公表されておきませんので、本市の数値としては把握していない。

- ④→厚生労働省が発表している国民生活基礎調査における貧困率を参考にできると考えているので、本市独自の調査は実施していません。全国でのこの上がり下がりが当市にもほぼ当てはまるのではないかと、調査を改めてはしていない。
- ⑤→今現在把握していません。

これらの結果に対して、女性が就業する場とか労働条件の面ではまだ敦賀市は不十分なのだという捉え方もできます。それならば、そこに何らかの手立てをとっていくことが求められるのでしよう。

暮らしやすさを考える指標は、政策の成果をはかるためには絶対に必要です。その考えの上で次の質問でした。

(2) 敦賀の暮らしやすさは何によって把握されて、その結果はどのように変化しているのでしょうか。

→総合計画の改定の際に市民3000人を対象に実施している市民意識調査というアンケート調査によって把握している。平成21年7月時点において、「本市を住みよいまち、どちらかといえば住みよいまちと考えている方」は73.9%であったのに対して、平成27年12月の時点では76.0%と、本当にわずかではあるものの数値が改善しており、市民の方の満足度は向上したものと考えている。との答弁でした。

「アンケート」は心情的なものです。アンケート調査はとても重要なものであり、無視できないものではありませんが、その背景にある数値の裏づけが必要なのだと思います。

大切なのは、暮らしやすさや、それを考える明確な指標を設定し、それをもとに、政策の成果を確認して次の取組みに生かしていくという流れの大切さを改めて感じます。

2. 角鹿小中学校について

角鹿小中学校云々については、これまで幾度も質問させていただきました。この4年間で、小中一貫校が一つの形になってきているのは素晴らしいことですし、高く評価しています。その中で、私としては最後の機会ということもあり、その根っこの部分について確認させていただきました。平成33年開校ということで今着々と準備が進められている角鹿小中学校ですが、これからの姿について、次の5点について確認させていただきました。

- (1) 施設一体型の小中一貫校という、義務教育の究極の姿の中で、どのような子供たちを育てたいと考えているのか。
- (2) 施設一体型を生かし、どのような教育を考えているのか。
- (3) どのような特色のある教育を目指していくのか。
- (4) 平成33年以降、角鹿小中学校がどのように進んでいくのか。
- (5) 現時点で課題になってくるものは何なのか。



この5点についての詳細な答弁は、HP上の「市議会の記録」を参照していただきたいと、思います。ここでは、私の考えを記しておきたいと、思います。

- ①角鹿小中学校は小中一体型の小中一貫、これは特別支援教育の面でも同様です。特別支援教育の小中一貫は、他にはない大きなものであるだけに、インクルーシブ教育も中核に据えた特色を出していただきたい。
- ②英語教育を前面に出したカリキュラムを今以上に推進していただきたい。小中学生の枠を解いて、英語の日を設定することも、小・中学生が生活を共にするのであれば、可能なのだとも考えます。

③今の小学生が20歳台になり、社会を支える主体となった頃、日本の社会は、私たちが想像できないほど大きく変化しているのは間違いありません。人口減少と少子高齢化は、その自覚のない中で、着実に進んでいきます。ですから、将来の社会の姿を子どもたちに正しく伝え、一人一人が考える、共に考える、大人と共に考える教育をぜひ特色として掲げていただきたいと思います。子どもたちの力を信じ、この子たちの未来のために。

立派な学校が完成することと思います。小中一貫教育を進める敦賀市のシンボリックな存在であるとともに、教育内容の面でも、しっかりした発信機能と強い使命感をもった学校になっていくことを楽しみにしています。

3. 虐待への対応について

今、社会問題としてもクローズアップされている児童虐待ですが、私は、この問題は、学校や最前線で取り組んでいる関係者の皆さんだけの問題ではないと感じています。言うなれば、社会全体で、全国民をあげて取り組まなければならない大きな問題なのです。その背景には、「格差」や「貧困」「家族の在り方」「地域のつながり」など、いろいろな要素があります。そして、その根っこには、「人とは何か」「生きるとはどういうことなのか」「価値観」といった、私たちが見ないふりをして通り過ぎてきた日本の社会の抱えている問題もあるのかもしれない。忘れてならないのは、虐待は「人権」に関わる問題であり、何よりも「命」の問題であるということです。



そんな思いの中で、具体的な対応についても質問させていただきました。気掛かりだったのは、次の2点です

(1) 組織の在り方と具代的な対応

虐待が疑われたり、認知された場合の対応について、具体的な場面を示した上で、質問させていただきました。

→虐待対応を含め児童家庭課の中に敦賀市要保護児童対策地域協議会【要対協】という協議会を持っています。まず市役所のほうに連絡をいただき、要対協の中で実質的に虐待対応をしていきます。要対協には、いわゆる関係機関、福祉関係団体であるとか学校、教育関係、また県との関係、医療関係、そして市の関係者を含めて24機関が入っております。コーディネートは基本的には児童相談所や要対協が中心となって進めています。

※まず感じるのは、第一報を児童家庭課が受ける。しかも、対応のコーディネートをしていくという点に違和感を感じました。どこがコーディネートするのか、ケースケースでばらばらになってくる。ばらばらになるということは、逆に言うと曖昧さも伴ってくるのではないかなという不安もあります。これから先、件数が増加していくことを考えると、見直していく必要性を感じます。

(2) 課題

※私が一番の課題であると感じているのは、市という枠ではなく、虐待対応の大きな組織の中での人的な課題です。要するに、児童相談所の職員の人的配置の問題です。すでに、児童相談所の職員の方は疲弊しきっているとも耳にします。職員を配置する。資格が必要ならば、全力で育てるという姿勢が必要なのだと考えます。これもまた、県の範疇ということなのではないでしょうか。そのことに対して、しっかりと確認していきたいと思っています。

選挙活動を通して 学んだこと

まず感じたのは、人は一人では生きていけないということでした。毎日、駆け付けて下さった多くの皆さんの支えがなかったら、心の折れてしまっていたに違いない9日間だったと思います。

日中の街宣でお会いできるのは、門口に顔を見せていただける高齢の方がほとんどでした。その方たちと手を握って交わす言葉の中で耳にしたのは、「よろしく頼む」という言葉でした。それは、自分の残された余生に対しての願いではなく、孫のこと、子どもたちのことを憂う言葉でした。年輪を感じる手の厚みを通して、改めて自分自身の使命の重さを感じ、胸が熱くなりました。『支える』ことの大切さを学びました。

土日には、いたるところで幼児や小中学生と出会いました。政治的な思いはなく、ただ親しみだけであっても、振られた小さな手はいつまでも残像として残っています。この子たちが社会の中心になる日は着実にやってきます。その時に、大人不信を抱かせないためにも、現時点で予測される将来の姿を正しくしっかりと伝えていく使命を果たす学校や教育でなければならないと強く感じます。



白銀の交差点での朝の挨拶と手振りでは、毎日仕事に向かう車両や通学の生徒のみなさんに出会いました。そこからは、「生活」を感じ取ることができ、誰もが社会の中で生き、自分自身の生活を持っていることを肌で感じました、そして、その中で生かされている自分を感じ、気持ちの高まりを覚えました。

毎日ジョギングをなさっている方や犬の散歩に通られる方との関係は格別でした。いつもの時間に通られない日があると、どうしたのか不安に思うようにもなり、「人の縁」の不思議さと大切さを感じることができました。

いろいろなところで、教え子や当時の保護者の方、おじいちゃん、おばあちゃんに出会いました。中学生の頃からは想像できないほど立派な社会人になっている姿に、感動することしきりでした。人は社会の中で成長していくのだと改めて感じ、学校は、その根っこを育てるに過ぎないと感じる一瞬でもありました。私と同様に年輪を重ねてきたなつかしい方との出会いは、苦労や喜びを共有していることが信頼に繋がるものなのだというを改めて教えてくれました。

学び多き9日間でした。この学びをこれからの活動に生かしていきます。

機関紙TUTTIも16号という節目を迎えました。これからのTUTTIは県議会活動の報告となります。これまで、地域のみなさんへのポスティングと支援者のみなさんへの郵送という形で報告させていただいてきましたが、これからは、何らかの手段で、市内の全戸への配布を考えております。これまで同様、ご意見等お寄せいただきますよう、お願い申し上げます。

また、「市議会だより」もあわせてお読みいただければ幸いです。
一つの区切りです。4年間ありがとうございました。そして、これからも
よろしく願います。



発行責任者・発行責任者

北川 博規

E-mail h.kitagawa131@gmail.com

ホームページ <http://kitagawa-hiroki.net/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/hiroki.kitagawa.754>

敦賀市津内町1丁目12-10 TEL. 090-1319-6667 FAX. 0770-22-4121